

2025.2.20



地域日本語支援ニュース こだま 第 452 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

■ともに学ぶ：東京都墨田区より■

夜間中学とは、公立中学校で夜の時間帯に授業を実施している学級のことです。戦後の混乱期、義務教育を受ける機会を失っていた人々にその機会を提供するために設けられましたが、時代の変遷とともに、生徒の背景に大きな変化が生まれてきました。文部科学省の調査で 2024 年 5 月時点では、全国で約 64% が日本国籍を持たない生徒となっています。夜間中学設置数も現在、全国 19 都道府県・13 政令指定都市に合わせて 53 校ありますが、2025 年度以降も開校決定、設置の検討が進められています（注 1）。こうした中、夜間中学の現場では、さまざまな模索が続いているのではないかと推察します。

今回は、東京墨田区にある文花（ぶんか）中学校夜間学級副校長の寺島孝武先生が、その課題と取り組みについて書いてくださいました。

夜間中学校の今

墨田区立文花中学校夜間学級 副校長 寺島孝武（てらしま よしたけ）

◆様変わりしてきた夜間中学校

文花中学校夜間学級の前身である曳舟（ひきふね）中学校夜間学級（平成 10 年閉校）は、特に戦争やさまざまな影響を受けた年配の方々の「学びたい」という思いに応える学校でした。時代は変わり夜間学級のニーズは変化し、現在登校する生徒は外国籍・不登校生徒が中心となっています。9 割を超える生徒が海外にルーツがあり、入学するほとんどの生徒が日本語学級から授業

を始めています。また 10 代の生徒が校内全体の 8 割にも増えたことから、昨年度は夜間学級を卒業後に定時制高校だけでなく、昼の高校へ進学する生徒も増えてきました。

◆日本語指導への取り組み

現在、東京都の不登校児童生徒数と在留外国人数は全国で最も多く、夜間学級の必要性がより一層高まっています。しかし、教員採用試験に「日本語教員」という採用枠は無く、夜間学級に配属されて初めて指導技術を学んでいく必要があります。また、今後のベテラン教員の異動・退職を考えると、教員の日本語指導力の育成は喫緊（きっきん）の課題となっています。

この課題解決のため、本校では初めて日本語指導を行う教員に対し、半年間は日本語指導をチームティーチングで行い、その後、夏季休業中に教員同士による模擬授業などにより日本語文法指導の習得などに取り組みしました。このような実践により、校内の教員全員が日本語指導をできる体制を維持することで、担当教科、例えば理科を教える教員が生徒の日本語能力を把握しながら、やさしい日本語を使って理科の授業を行うなど、自分の教科の指導にも活かすことができています。

◆リレー形式で日本語指導

本校の特徴として全教員が日本語指導をできるようになっていることが挙げられますが、これにより 1 つのクラスの日本語指導を、複数の教員がリレー形式で入れ替わりながら指導できるようになっています。メインの日本語教材は『大地』（スリーエーネットワーク）を使用し、授業後にクラス毎の記録ノートにメモを残すことで、次の授業は、前に授業を行った教員の指導の続きを行うことができるといった方式です。このように授業を行いながら、生徒は個々の日本語能力に合わせて年間 300～400 時間を日本語学級で学び、その後は日本語力の差に応じてクラス分けされた普通学級に進級し、9 教科を学ぶことになります。（1 年生の日本語学級に入学した生徒は普通学級の 2 年生に、2 年生の日本語学級に入学した生徒は、普通学級の 3 年生に進級します。）

ただし、1 日の授業が 40 分授業 4 コマと制約があるため、各教員が指導内容を取捨選択しながら「個別の教育課程」に取り組むことになります。

◆日本語能力別のクラスに 1～3 年生が属する学級で複式授業

各クラスは日本語能力別の複式学級であり、つまり同じクラスに 1～3 年の生徒が所属します。そのため、普通学級での教科指導は個別学習塾のように、教室内で生徒一人ひとりが異なる内容を学んでいます。これを実現するため

には「個別最適な学び」が大切であり、本校では教育委員会から全生徒に配布された一人1台端末を利用し、教員がタブレット端末上で課題を送るなど教科ごとに工夫しています。しかし、学年も母語も異なる生徒集団のため「協働的な学び」（注2）を行うにはいったん普通の授業をストップし、特別な授業準備をする必要があります。これは夜間学級として、今後どのように実践していくか研究していく必要があると感じています。

◆夜間学級の授業見学にご来校ください

このように現在の夜間学級は、時代に合わせて変化してきています。最後になりますが夜間学級というと、全てが夜間に行われると思われがちですが、二泊三日で京都・奈良方面に修学旅行に行きますし、都内の夜間学級が集まって行う連合体育大会や校内の文化祭など、昼に行われる行事もあります。しかしこういったことは、所属しないとわからないことかもしれません。教員として日本語指導を含めて授業は大切ですが、私たちは夜間学級での教育を望む人に対し、学べる場があることを発信し続けることも使命なのかもしれません。そのため、このような記事を書かせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

みなさまも夜間学級の授業見学にどうぞご来校ください。

編集部注

「墨田区立文花中学校夜間学級」

<https://www.sumida.ed.jp/bunkachuyakan/soshiki/index.html>

（注1）政府広報オンライン「『夜間中学』を知っていますか？」

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201601/1.html#thirdSection>

文部科学省「『令和6年度夜間中学等に関する実態調査』結果の公表について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/1408539_00002.htm

文部科学省「夜間中学の設置・検討状況1」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/index_00003.htm

（注2）「協働的な学び」とは、探究的な学習や体験活動を通じ、生徒同士や多様な他者ととともに互いを尊重しながら協力して活動するで学びを得ること。

参考：文部科学省「2.(3)2 協働的な学び」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/senseioun/mext_01492.html
